

放射線リスクコミュニケーション 相談員支援センター だより

水道水の安全性に関する研修会を開催しました。

東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、水道水に放射性物質が混入しないか等、住民の方々が不安に感じている事について、相談員の方々から多く聞かれるとともに、水道水の安全性に関する相談も当センターに寄せられていました。また、水道水の安全性については一つの自治体だけでなく、複数の自治体に共通した問題であることが分かりました。このことを踏まえ、当センターでは、双葉地方水道企業団の構成5町（広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町）を対象とし、水道水の安全性に関する研修会を2回にわたり開催しました。

1回目の研修会では、双葉地方水道企業団の構成5町の相談員等の方々を対象として、楡葉町にある木戸ダム・小山浄水場・水道水のモニタリング検査室での検査の様子を見学しました。

小山浄水場では、原水から水道水となり供給されるまでのろ過の過程や、双葉地方水道企業団が独自に実施している24時間体制のモニタリング検査の検査機器や検査体制についても実際の設備を見ながら説明を受けました。また、構成5町の震災前の送配水の現状・今後の配水計画について企業団より説明を受けた後、専門家を交えて意見交換会を行いました。

参加者からは、「見学することで、安全性が理解できた」、「安全であることが理解できても納得できるかどうかは別の話」、「何が不安なのかはつきりしない不安への対応が難しい」等の意見があり、継続して研修会を行う必要があると考えられたことから、2回目の研修会を企画しました。



●浄水場の見学の様子（1回目の研修時）

2回目の研修会では、前回の内容等の振り返りとして、事前に寄せられていた質問（放射性セシウムの管理目標値 10Bq/kg は安全なのか。検出限界（ND）はどのような意味か。検出限界（ND）以下は「0」なのか。等）に対して、双葉地方水道企業団や専門家から解説を受けました。また、各自治体での水道水の安全性に関する取り組み（広報誌での広報等）を紹介した後、住民からどのような声があり、それに対してどのように対応するかを議題としてグループワークを行いました。

当センターでは、今回の研修で参加者から

挙げられた「漠然とした不安がまだまだ多い」といった課題等を踏まえ、引き続き、研修内容の充実を図っていきます。



●グループワークの様子（2回目の研修時）

相談員等との情報共有、意見交換の会を開催しました。

1月27日に、今年度2回目の「相談員等との情報共有、意見交換の会」を開催しました。今回は、相談員等の方々に直接復興の状況を見てもらうため、楡葉町での開催とし、避難指示解除や準備宿泊が進められている自治体の状況を中心に、どのような相談・質問事例があるのか、またそれらへの対応の例などの情報共有を目的に意見交換をしました。

第1部では、放射線関係部署等の活動、準備宿泊における住民からの要望・質問等に関する問題やその対応などを、避難指示が解除になった自治体及び準備宿泊を実施している自治体から紹介いただき、第2部では、どんな相談員になりたいか（育てたいか）という目標と、その方法や課題と、当センターへの

要望等を議題とし、グループワーク形式による意見交換や、質疑応答を行いました。

参加者からは、「人材の確保が困難」、「次世代への放射線教育が必要」、「相談員や住民への研修のために、支援センターや国の関係機関への協力を依頼する」などの課題や要望が挙げられました。



●意見交換会の様子

相談員の支援のための業務紹介

当センターで行う相談員等の方への主な支援は、次のとおりです。

●相談窓口の設置

解除区域等で活動する相談員等の方からの、放射線による健康不安等に係る相談を電話などでお受けします。

●専門家の派遣

相談員等のみでは対応が困難な事例に対し、相談員等からの求めに応じ、適切な専門家を派遣します。

●相談員等に対する研修会の開催

相談員等を対象として、放射線による健康不安等に対する実践的な研修を行います。

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター だより No.6

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
連絡先：〒970-8026 福島県いわき市平字小太郎町2-6 いわきフコク生命ビル5階
フリーダイヤル：0120-478-100 FAX：0246-35-5158 E-mail：F-sodan@nsra.or.jp